

5. 大血管転位症と心室中隔欠損症との発生要因に関する比較調査

国立小児病院
松尾 準雄

大血管転位症76例(男51,女25)と心室中隔欠損症100例(男48,女52)とに就いて,その発生に関連すると考えられる諸因子を調査し両群の比較検討を行った。

なお心室中隔欠損症は心外奇形がなく,手術,心カテ,或は剖検によって確かめられた例のみである。

調査した項目は,(1)両親の年齢(2)当該児妊娠前の母体の既往歴,(3)血族結婚,(4)同胞の先天異常,(5)同胞の先天性奇形の発生,(6)三親等以内の先天性心奇形の発生,(7)三親等以内の心疾患の発生,(8)三親等以内の糖尿病,(9)妊娠中の切迫流産,性器出血,黄体ホルモン使用,感染症,栄養剤使用,レ線照射,妊娠貧血,造血剤使用,その他の薬剤使用,(10)患児出生までの妊娠歴,(11)自然流産死産の既往,(12)患児の出生時期,(13)在胎期間,(14)患児出生時の異常,(15)患児の生下時体重,(16)合併奇形,(17)双胎などである。

その結果,大血管転位症では同胞の先天異常が2例(VSDでは0例),三親等以内の心疾患の発生4例(VSDでは2例),三親等内の糖尿病4例(VSD1例),患児出生児の仮死4例,臍帯巻絡6例(VSD0例),低体重児31例(V-

SD6例)などが多く,心室中隔欠損症では合併奇形が2例(TGA0例),双胎3組(TGA0例)で多い傾向がみられた。

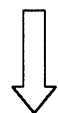
妊娠中の異常や薬剤投与に関しては表1に示す通りで,黄体ホルモン剤の使用は大血管転位症群では1例に対し,心室中隔欠損症群では5例で,この結果から特に大血管転位症群で黄体ホルモン剤の使用例が多いとは言えない。

妊娠中の異常や治療

	大血管転位症	心室中隔欠損症
切迫流産	3	2
性器出血	0	2
黄体ホルモン使用	1	5
感染症	2	3
栄養剤使用	1	3
レ線照射	2	5
妊娠貧血	4	3
造血剤使用	3	3
その他の薬剤使用	3	4



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



大血管転位症 76 例(男 51, 女 25)と心室中隔欠損症 100 例(男 48, 女 52)とに就いて, その発生に関連すると考えられる諸因子を調査し両群の比較検討を行った。

なお心室中隔欠損症は心外奇形がなく, 手術, 心カテ, 或は剖検によって確かめられた例のみである。